作物名：かき
病害虫名：炭疽病（病原：*Colletotrichum fioriniae*、*Colletotrichum fructicola*、*Colletotrichum gigasporum*、*Colletotrichum gloeosporioides s. str.*など）

写真１　かき果実の病斑

写真２　かきの枝病斑

１　被害の特徴と診断のポイント

- 新梢、果実、葉に発生するが、主に新梢や果実に発生する。
- 新梢では、黒褐色～黒色の中央がやや窪んだ紡錘形の病斑が形成される。症状が進むと枯死することもある。
- 葉では、葉柄に黒褐色～黒色の小斑点や紡錘形の病斑が形成される。症状が進むと落葉する。
- 果実では、6～7月の幼果期から発生がみられ、黒褐色～黒色の中央がやや窪んだ円形～不整形の病斑が形成され、症状が進むと落果する。
- いずれの病斑も、鮭肉色の胞子堆を形成することがある。

２　伝染源・伝染方法

- 本病原菌は、主に枝病斑で越冬するが、ほ場内に放置された罹病した果実や葉でも越冬する。
- 平均気温15℃以上に降雨等で病斑部分が濡れると分生胞子を形成し、風雨によって飛散する。
- 潜伏期間は比較的短く、7～10日程度といわれている。
- 最初に伸長中の新梢に感染し、追って果実にも感染する。
- いずれの病斑部にも胞子を形成し、二次感染する。
- 感染時期は、5月頃から収穫期まで長期間に及ぶ。

３　発病しやすい条件

- 平均気温15℃以上で降雨が続くと発生が助長される。
- 主な一次感染源は枝病斑であり、せん定時に枝病斑を多く残すと発生が助長される。
- 罹病した果実や葉も感染源となるため、これらをほ場内に放置すると発生が助長される。

４　防除方法

- 罹病した新梢、果実、葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- せん定時に罹病枝をせん除し、ほ場外に持ち出して処分する。
- 5月～収穫期に、本病に登録のある殺菌剤を散布する。
- 風通しの良い樹形に努め、薬液が樹冠全体に届くようにする。

５　出典

(1) 参考文献

- ひと目でわかる果樹の病害虫第二巻（改訂第二版）（日本植物防疫協会）
- インターネット版 防除ハンドブック 日本ナシの病害虫（全国農村教育協会）
- 農業総覧原色病害虫診断防除編第7巻（農山漁村文化協会）

(2) 写真

- 宮城県大河原農業改良普及センター撮影

写真3 鮭肉色の胞子堆を形成したかきの果実病斑

（令和7年5月作成）